

クスベニヒラタカスミカメという外来種のカメムシの被害を市内で確認しました。

このカメムシはクスノキに特化したカメムシで、成虫も幼虫もクスノキを食べて被害を与えます。逆に、他の植物に被害が及ぶことはないと考えています。

2016年ごろに中国から日本(関西地方)に侵入したとされていますが、大きく取り上げられるようになったのは、2019年ごろで、九州で多くの発見報告がなされ、定着が確認されました。

2019年ごろから都内区部で確認されたとの報告があり、繁殖力や拡散スピードが驚異的と考えられます。

あきる野市でも2023年に公共施設のクスノキに吸汁(植物の養分などを吸うこと)された被害葉を確認しました。

今年、2025年にはあきる野市役所のクスノキで集中加害を受けて、樹冠(植物の上部にある、枝や葉が茂っている部分)の2割ほどが枝枯れを起こす被害が確認されました。

たかがカメムシですが、このように大きな問題あり、新規外来種であることから、まだ使用できる登録農薬(殺虫剤)もないなど、防除ができない現状です。

JA東京の花木生産組合からもクスノキの新種の害虫として注意喚起されています。



↑クスベニヒラタカスミカメ

出典: JA東京植木 (<https://jatokyo-ueki.or.jp>)

クスノキは公園や公共施設に植えられることが多く、大きく育ったクスノキに殺虫剤を使用する場合、強力な動力噴霧器で消防ホースのように薬剤を樹冠に噴霧することが一般的で、薬剤のドリフト(飛散)が大きな問題となるため、現実的ではないと考えます。

現在、クスベニヒラタカスミカメは研究機関での研究段階で、防除の方法が確立するのはまだまだ先の話になると思います。

できるなら、樹幹注入(樹木への注射)で対応できるのが理想的だと思います。

クスノキは長寿で全国的にも巨樹・巨木が多く、防除が確立できることを期待します。



↑吸汁被害葉



↑吸汁被害で枯れた部位

ベッコウタケの被害

ベッコウタケは多くの広葉樹に発生し、木を腐らせる力が強いキノコで、特に根株に侵入して腐らせ、倒木の原因にもなることがあります。「倒木事故」のニュースで報じられることもあります。

下の2枚の写真のように樹木は感染し根株が腐っていても、樹木自体は元気で、枝葉を広げています。

これは、樹木の「木部」と呼ばれる固い部分は死んだ細胞で、樹体を支える構造材としての役割を担っているためです。生きている細胞は樹皮をめくると見られる膜状の部分で、「形成層(ケイセイソウ)」と呼ばれるところだけです。つまりは、木部が腐り、空洞化しても生きている細胞は被害を受けていないため、元気に育つのです。

しかし、樹体を支える構造材も時間とともに劣化したりすれば、支える力を失い、前兆なくいきなり倒壊し、時には死傷事故を引き起こすこともあるなど、危険なキノコです。

あきる野市では、街路樹としてサクラが多く植わっていますが、このサクラもベッコウタケが好む樹種の一つです。

ベッコウタケの発生場所を見ると、交差点や駐車場の出入口など、車の排気ガスの影響を受けやすいところで多く見られます。どうも、こうしたことから局所的な大気汚染と関係があるのかもしれない、と考えています。(排気ガスの影響を受けないところでも発生します)

また、若い木よりも老木に発生するケースがほとんどで、樹木自体が老齢になり、抵抗力が少なくなり、菌類の侵入を許してしまうようです。

注意してみると、元気にみえる樹木でも、倒壊の危険があるかもしれません。



↑ ベッコウタケ



↑ベッコウタケにより腐り、朽ちていっている根株

心材(中心部)は腐った状態で、周りの木部だけで樹体を支えている状況。

中心から円状に腐った部分が広がり、樹体を支えられなくなり、最終的には倒壊してしまう。



このサクラは、ベッコウタケが生えていても、形成層は無傷で、元気よく枝葉を伸ばしています。

しかし、内部、根株周辺は腐っていていると考えられます。